



避難所で学んだ寄り添う姿勢

「体を動かすのが大好き。じっとしてられないです」と笑うのは、YMCA学院健康スポーツ科1年生の後藤星那さん。3歳からながみねファミリーYMCAの水泳教室に通い、小学3年からはスポーツクラブでサッカー、学校の部活ではバスケットボールに取り組んできました。



今年4月、意気揚々とYMCA学院に入学しましたが、直後に熊本地震が発生し、休校に。本震の翌日から約2週間、避難所となった母校の高校に泊まり込みでボランティアとして活動し、食事のサポートやエコノミークラス症候群予防のためにストレッチ指導などを行ったそうです。

5月10日から授業が再開し、5月20日にはクラスの実習として益城町へ避難所の支援活動に。「母校では、知識もないまま、自分でストレッチの方法などを調べて行いました。今度はYMCAの先生から指導を受け、知識を身に付けた上での訪問。より責任感を持って臨まなければならないと思いました。ストレッチだけではなく、被災された方々の気持ちをくみ取った接し方も学ぶことができました」



益城町総合体育館でのボランティア活動

Y
M
C
A
で
見
え
て
き
た
、
人
と
向
き
合
う
こ
と
の
大
切
さ

貫いた。“選んだ道を進みたい”

通っていた高校は進学校だったという後藤さん。「進路に迷っていた時、YMCA学院にトレーナー育成の学科があることを知って、進学を決意しました」。同級生は大学進学を目指す人がほとんど。高校の先生からは、何度も「大学に行かなくていいのか?」と問われましたが、「自分で選んだ道を進みたい」と、健康スポーツ科に入学しました。「入学したら、実技が多く、様々な経験ができるYMCA学院は自分にピッタリだと思いました」。クラスには、同じ夢を持つ人ばかりが集まっているため、話をしているだけで楽しいそうです。「自分の選択に後悔はありません」と真っ直ぐな瞳で語ります。



クラスメイトと協力して挑んだ登山実習

プロリーグの試合を間近に見て感動

9月には、クラスの実習の一環で、熊本ヴォルターズのバスケットボールBリーグ開幕戦の運営をサポートしました。実習の趣旨は、スポーツに関するイベントなどを安全に運営し、観客を楽しませる手法などを学ぶこと。後藤さんもコートでのモップがけや受付などを手伝いました。

高校時代に続き、YMCA学院でも女子バスケットボール部に所属。実習の翌日は県内の専門学校が参加する、年に1度の体育大会に出場しました。「前日にヴォルターズの試合を間近に見て、良いイメージトレーニングにもなりました。大会では決勝で敗れて九州大会へ進出はできませんでしたが、来年につなげていきたいです」。この試合で2年生が引退し、新キャプテンとして奮闘しています。現在は1年生4名で活動。「今、部員集めに奔走しています。次の試合ができる時までにスキルアップとチーム力を向上して準備しておきたいですね」と話します。



ボランティアで明確になった将来の夢

スポーツトレーナーの中でも、クライアントとトレーナーが1対1で、一人ひとりの個性に合わせた指導を行う“パーソナルトレーナー”を目指している後藤さん。「5月に益城町でボランティアを経験した時は、ふたりで一人の高齢者の方を担当しました。笑顔で“ありがとうね”と言われて、“人の健康のためになる仕事っていいな”という気持ちがさらに強くなりました」。今は、国際的パーソナルトレーナー資格であるNSCA認定パーソナルトレーナーの取得を目標に知識や技術を習得中です。この資格は筆記試験だけでも取得できますが、実技の検定試験を受けると実技指導者の資格も取得できます。「熊本県で実技の認定検定員資格を持っているのはみなみYMCAでトレーナーとして勤務する黒木裕二さんだけなんです。すごいな、と思って」。今後、みなみYMCAでの実習が予定されており、直接指導を受けられることを楽しみにしているそうです。「クライアントと1対1で取り組むというのは、強い信頼関係を築くこと。せっかく人とつながるのであれば、しっかりつながって健康づくりのサポートをしたい」と、理想に燃えています。

Pickup

いくつ入るかな?
黒川保育園運動会



水前寺幼稚園運動会で
“おむすびころりん”

選手宣誓!
ぶどうの木幼児園運動会





国際協力青少年育成年末募金



ご協力をお願い

熊本YMCAでは、毎年、年末から翌年1月にかけて標記の募金活動を行っております。皆様からお寄せいただきました募金は、経済的に援助を必要とする子どもたちへの支援、国際協力活動やこの活動を支える青少年育成、地球市民の育成などに用いられます。

4月、熊本は二度にわたる震度7の激震に見舞われました。この地震を受けて、全国の皆さまや海外からも多数の支援金や応援メッセージが届きました。また、多くのボランティアが熊本を支えようと県内外から駆けつけてくれています。

私たちは平和の祈りを行うだけでなく、世界の平和への関心を更に深め、私たちにできる平和につながる様々な活動を行っていきたくと考えています。紛争や貧困、また自然災害などによって世界中の多くの仲間が苦しんでいます。現地での直接的な支援活動や子どもたちの心のケアを継続して実施する必要があります。

皆様にはこの様な募金の趣旨をご理解いただき、本年度もご協力を賜りますようお願い申し上げます。

熊本YMCA 会長 福島 貴志
募金委員長 田中 俊夫
総主事 岡 成也

2016年度目標 900万円

拠出予定先	目標額
経済的な理由でYMCAのプログラムに参加できない子どもたち等の支援	3,000,000円
国際協力活動のため	1,700,000円
災害復興支援のため(熊本地震・台風10号・東日本大震災・九州北部豪雨災害)	1,300,000円
ボランティアリーダー育成・派遣(地球市民育成のため)	800,000円
熊本YMCA学園奨学金制度	1,000,000円
社会福祉法人熊本YMCA福祉会-障がい者自立支援活動のため	400,000円
シニア世代の健康年齢延長のために メディカルサポート	200,000円
草の根活動(NPO・NGO)の支援	200,000円
事務費	400,000円
合計	9,000,000円



タイ・ユースワークキャンプ

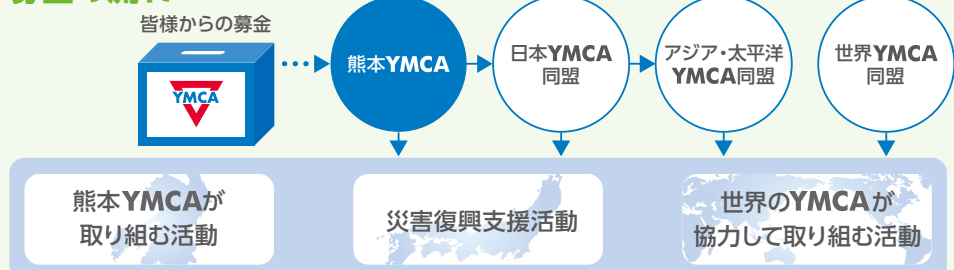


国際青少年平和セミナー



被災児の心のケアキャンプ

募金の流れ



募金は直接お近くのYMCAにお持ちください。郵便振替や銀行振込、書留でも受け付けています。また、熊本YMCAへの募金や寄付は、税制上の優遇が受けられます。詳細はWEBページをご覧ください。



<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/bokin>

※募金をいただいた方のお名前は、YMCA館内に掲示と、YMCA NEWS 3月号に掲載させていただきます。掲示・掲載をご希望されない方は、お知らせください。

市民クリスマス2016



クラリネット奏者の柳瀬洋さんらを招いてアンサンブルチャリティーコンサートを開催します。益金は熊本地震復興支援活動などのための支援金として寄付いたします。

日 12月13日(火) 18:30開場 19:00開演

場 九州ルーテル学院大学チャペル

費 大人1,500円/学生以下1,000円

チケット取り扱い 熊本YMCA各施設・熊本YWCA

問 熊本YMCA TEL 096-353-6397

インターナショナル・チャリティーラン

障がいのある子どもたちもそうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会をめざし、全国で開催されている大会です。熊本では今年第1回を開催します。

日 12月18日(日) 10:00~14:00

場 熊本県農業公園カントリーパーク (合志市)

問 熊本YMCA TEL 096-353-6397

※詳細・申込はWEBサイトをご覧ください。



R | E | P | O | R | T

ユースが想いを語る ユースフェスタ2016

毎年、YMCAが実施する様々な活動に参加したユースが活動報告を行うユースフェスタ。今年は、10月1日(土)、上通YMCAにて開催し、ユースや運営委員など63名が参加しました。

各グループが活動を通してどのようなことを感じ、今後どうしたいと思ったかなどを中心に発表。国際青少年平和セミナーやタイ・ユースワークキャンプに参加したユースからは、「言葉は通じなくてもコミュニケーションを取ることができた。積極的に関わろうとす

ることが大切」と感想が語られました。今回は、熊本地震の支援活動の発表も行われ、「YMCA学院に入学してすぐに地震が起きて、専門知識もない自分に何ができるのだろうと不安だったが、避難所の皆さんから感謝され、参加して良かった」等の声が聞かれました。

発表の後は、スリランカとミャンマーのカレーを食べ比べながら交流。他のユースの発表を聞いて、これからは新たな活動に挑戦したいと刺激を受けていました。

上通YMCA 桐原奈緒子



私たちが社会を変える 日本YMCA大会

10月8日(土)～10日(月・祝)の3日間、静岡県御殿場市にある東山荘で行われた第19回日本YMCA大会に、熊本からユース1名、職員2名が参加しました。

この大会は、全国各地でYMCAに携わる人が一堂に会し、交流や様々なテーマについて話し合うことを目的に2年に一度開催されています。今年のテーマは「ユースエンパワメントを加速する～私たちの活動が社会を変える～」。ユースが中心となってつくられた今年大会では、講演やグループディスカッションを通してよ

り良い社会づくりのためにユースがどう活躍していくか、シニアがどうサポートしていくかを考えました。

参加した大学院生の片橋匠さんは「ユースは、シニアの力があればもっと飛躍できるのに、否定されることを恐れるあまり、シニアに声をかけるのをためらってしまいがち。一方シニアも、人生経験があるがゆえに、同じ目線に立つことが難しい場合があると思う。両者が歩み寄ることが大切だと感じました」と語ってくれました。

本部事務局 工藤瑛里菜



全国のリーダーが集結 YMCAリーダー研修会

10月8日(土)～10日(月・祝)の2泊3日、香川県にある余島野外活動センターにて第47回全国YMCAリーダー研修会が行われました。全国のユースリーダー88名が集結、熊本からは6名が参加しました。

今回の研修会のテーマは「体験を確かなものに『Because of～あの体験があったから今の私がある』」。様々な体験・経験について、ただ、「楽しかった」で終わるのではなく、それがどのような成長につながっているのか、社会や地域にどのように影響してい

るかなどを振り返りました。

熊本から参加したユースリーダーからは「他県のリーダーたちと共に学ぶ中で、価値観の違いなど様々な発見があり、とても有意義な3日間だった」と感想が寄せられました。私が印象に残っている言葉は「失敗を恐れては、成功はない」「体験に勝る経験はない」です。この研修会で学んだことを熊本YMCAに広め、実践していきます。

ながみねファミリーYMCA 下田奈央子



総主事の
タラント
Vol.31

ユースエンパワメント

先月、新本館がオープンした日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘で第19回日本YMCA大会が開催されました。

YMCAが持つ宝は人です。今大会では、ユースとシニアが思いや願いを分かち合い、課題を共有し、つながりを実感することができました。ディスカッションの中では、「ユースとシニアが交流する機会をもっとつくりたい」、「行動を起こす勇気を持つことが必要」、「自分

の弱い部分を変えていきたい」などのポジティブな意見が多く聞かれました。

シニアは、経験値が豊富という自負を持ちがちです。しかし、新しいものを導入したり、違う価値観を取り入れようとする際には、その経験値が邪魔をすることもあります。一方ユースの弱点は、経験不足と言えるかもしれません。しかし、若干危なっかしいところがあるかもしれませんが、その経験不足こそが、新しいものを生む際に、殻を打ち破る原動力になることもあるのです。

今大会はユースが多く参加しました。「これまでの蓄積されたシニアの経験だけではないユースの持つ大きなポテンシャルをどう活用するか」、「社会課題に向けて働きを行うYMCAの活動に、どうユースにコミットしてもらい、任い手として活躍してもらうか」。広がる

ユースエンパワメントの可能性の大きさを感ずる大会となりました。

私たちYMCAは互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会をつくるというビジョンを掲げました。ユースはもとより、シニアも意識改革の場として交流とディスカッションができる様々な機会をつくっていくことが必要です。

YMCAに関わるすべての人(=宝)が、変革への一步を踏み出す勇気が試されています。地域社会の課題に向き合うYMCAは、すべての人々が共感できる、信頼される働きを愛をもって進めていきたいものです。そのためには、次世代を担うユースの力が必要です。ユースの持つ発想の柔軟さをシニアがフォローしながら新しいYMCA運動を推進いたしましょう。

t a l a n t o n

熊本地震復興支援

熊本YMCAオリジナル刺繍ワッペン付き 熊本地震復興支援バッグ販売中

熊本地震復興支援のためのオリジナル刺繍ワッペン付きバッグを販売します。刺繍ワッペンのみのご購入も可能です。売上は熊本YMCA震災復興支援募金に充てられます。

- バッグ 5,000円／1個
- 刺繍ワッペン 1,000円／1枚

このバッグ販売にあたってご協力いただいた皆さん

- バッグの提供
…コストコホールセールジャパン株式会社
- ワッペン制作
…株式会社ジャヌーツー、ブレイン株式会社
- ワッペンの縫い付け
…株式会社ジャヌーツー、マダムM(株式会社アン・コトン)、福島県仮設住宅の皆さん、おおつち おばちゃんくらぶ(岩手)



※柄は4種類

お問合せ先 熊本YMCA本部事務局
TEL.096-353-6397

ウインターキャンプ&冬休み短期プログラム 子ども応援プロジェクト

熊本YMCAでは子どもたちに楽しい冬を過ごしてもらおうと、毎年、“ウインターキャンプ&冬休み短期プログラム”を実施しています。今年度は、熊本地震の被災者の復興支援として、罹災証明を受けられた方に対し、参加費の半額を補助いたします



※写真はイメージです

(一部対象外)。詳しくは各YMCAまでお問い合わせください。(各市町村の発行する罹災証明書(コピー可)をご提示いただきます)

ウインターキャンプ&冬休み短期プログラム

WEB限定受付 11月12日(土)9:00~12月2日(金)12:00

- キャンプ(雪遊びキャンプ・スキーキャンプ・クリスマスキャンプなど)
- スポーツスクール(体操・水泳・スケート)
- アフタースクール



児童保護シェルター タイ・パヤオセンター 長期ボランティア報告 Vol.1

タイ・バンコクのYMCAが運営している児童保護シェルター「パヤオセンター」に横浜YMCAを通して派遣され、8月から1年間のボランティア活動を行っているYMCA国際ユースボランティア、高山未来さんから現状報告が届きました。(YMCA NEWS 8月号参照)

パヤオセンターでの仕事をより円滑にするために、私は10月半ばからバンコクに語学研修に来ています。バンコクに到着したその日にプミポン国王が亡くなって外を歩く人はみんな黒い服を来ています。

パヤオに来て半月は前任の方との引き継ぎがありました。ボランティアとして、パヤオセンターでの私の仕事は主に3つあります。

まず、日本からのワークキャンプやスタディツアーの受け入れです。年に7~8グループがセンターに来てくれて人身売買について勉強したり子どもたちと交流したりします。スタッフはみんな日本語が話せないの日本人の来客があるときはボランティア



が対応します。

次に「パヤオクラフト」の生産受注管理です。



続きはWEBで公開しています。ぜひご覧ください。

わたしと聖句

マタイによる福音書 19章14節

子どもたちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。

自由な発想で

11月と言えば、世の中は七五三シーズンです。子どもたちの成長を願って神社にお参りをする姿を見かけます。教会でも、この時期に合わせて毎年11月第二日曜日に幼児祝福式を行っています。日本のキリスト教独自のものですが、礼拝の中で、就学前の子どもたちを対象に、成長に感謝し、新しい1年の守りをお祈りしています。高齢化の波がドツと押し寄せる教会の現実の中で、どんなに騒がしくても、子どもたちの声が響く礼拝は、恵みに満ちた時となります。

近年、保育園や幼稚園を移転・新設しようとす

ると、建設予定地の住民から反対運動が起こるといふニュースを聞くことがあります。みんな幼少期を経て大人になって、今があるはずですが、私には知り得ない理由があるのかも知れませんが、まるで自分が歩んできた道を否定するかのような社会の風潮に悲しみを覚えます。

人間は「神の似姿」であると聖書は語ります(創世記1:27)。赤ちゃんであつてもそこに神の似姿があるのです。しかしいつの間にか、日常の様々なことについて大人の価値観を当てはめて、子ども本来の自由な生活や発想が「危ない!」と遠ざけられています。「子どもたちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。」大人の物差しで子どもを治めようとする弟子たちを、イエスさまは戒められました。子どもらしい営みを尊重される神の御旨がここに表れています。子どもに限らず、高齢者、若者、壮年本来の自由な発想を認める教会共同体の意義を、今こそ再発見していきたいですね。

日本キリスト教団 熊本草葉町教会
難波信義



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2016年度基本聖句

コリントの信徒への手紙Ⅱ 13章11節

思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。